

# いいもの成らせるさくらんぼ便り

Vol.8 暑さに気を付けながら、園地環境を改善しよう!

- ◎ さくらんぼの樹は、すでに来年の花芽をつくり始めています。
- ◎ 良い花芽をつくるために、園地を見直しましょう!

## 1 はじめに ～本年を振り返って～

- ◆ 本年は、凍霜害や開花期の天候不順により、ここ数年の中でも特に収量が少ない年になりました。
- ・・・次年度に向けて、対策を検討してみませんか？

【安定生産に向けた結実対策の例】

- ・ 防霜対策の実施（散水氷結法・燃焼法・防霜ファンなど）
- ・ 受粉樹の導入（複数品種を導入する、園地内の受粉樹の割合を高める）
- ・ 摘芽の程度の検討（降霜による被害が多かった部位では、多めに残す） など

## 2 今後の管理について

- 良い花芽をつくるために・・・
- ① 園地・樹の光環境を改善する → 縮間伐・夏季剪定
  - ② 収穫後防除を徹底し、健全な葉を維持する → 防除
  - ③ 速やかに樹体の栄養状態を回復させる → 礼肥・かん水（前号 Vol.7 参照）

### (1) 縮間伐・夏季剪定（光環境の改善）

- ◆ まずは、園地や樹の状況を確認しましょう!

縮間伐や夏季剪定の必要がない園地・樹	縮間伐や夏季剪定が必要な園地・樹
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 樹冠内部にもチラチラ光が差し込んでいる園地。</li> <li>・ 樹冠に余裕がある園地。</li> <li>・ 樹勢が適正～弱い樹。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 樹冠下に光が届かない園地・樹。</li> <li>・ 大枝が多く、樹冠内部が暗い樹。</li> <li>・ 上部の枝が大きく、下部の日当たりが悪い樹。</li> <li>・ 樹勢が強い樹（強勢な枝や徒長枝の発生が多い樹）。</li> </ul>

- ◆ 初めに・・・隣同士の樹の枝が重なっていたら ⇒ 縮伐・間伐  
→「永久樹（優先する樹）」を決め、そうでない樹を縮間伐。
- ◆ 次に・・・樹冠内部が暗い樹、特に樹勢が強い樹では ⇒ 夏季剪定

**【夏季剪定の注意点】（必須作業ではありません！）**

- ・ 樹勢が適正な樹、弱い樹、十分明るい樹・園地では行わない！
- ・ 剪定は最小限に！ノコギリを主体とした間引き中心の大枝整理のみとする。
- ・ 気温が高い時期に剪定を行うと、日焼けや双子果の発生を助長する可能性があるため、8月中旬以降に行う。

◆ 成木の樹冠下に苗木を混植した場合

→ 成木の縮間伐を検討しましょう。  
(右図：苗木の真上に被さっている大枝を縮伐)

「やまがた紅王」の苗木を  
成木の下に植えていたりしませんか？  
**日当たりが確保できているか要確認！**

※ そのままにしておくと、苗木の生育が遅れ、  
収量確保の遅れや果実品質の低下につながる  
ため注意しましょう！



**(2) 病害虫防除**

- ◆ 褐色せん孔病 ⇒ 収穫直後から8月中旬まで、「**少なくとも3回は必ず**」散布。  
※ 昨年多発傾向だったため注意しましょう！
- ◆ ハダニ類 ⇒ **丁寧にムラなく散布！** 散布は草刈り3日後に実施。  
※ 高温乾燥時は、頻繁な草刈りを避ける。
- ◆ カイガラムシ類 ⇒ 幼虫の孵化が最盛期となる8月上旬～中旬に、1～2回散布。

**(3) その他（かん水・施肥）**

- ◆ 高温が続いています！土壌が乾燥している場合はかん水を！  
特に、幼木は根域が乾燥しやすいため注意が必要です。
- ◆ 基肥は、根が活動している9月上旬～中旬に施用しましょう。  
礼肥で施用した年間施肥量の残りを施用し、貯蔵養分を十分に蓄えさせましょう。

**熱中症には十分注意！ 必ず休憩と水分補給を行いましょう!!**